

栃木県養護教育研究会・会報

平成26年10月 9日

か が や き

第 4 2 号

発行者 栃木県養護教育研究会  
 会長 大豆生田 聡  
 編集者 栃木県養護教育研究会事務局



## 思いつくままに・・・

真岡市立亀山小学校教頭 青山 直己

37年前の昭和52年4月、「自分の健康は自分で守る」ことができる子どもに育ててほしいとの願いを抱きながら、茂木町の小学校に新規採用養護教諭として赴任しました。当時は、まだ養護教諭のいない学校もあり、養護教諭全校配置に向けて計画的に大量に採用していたころでした。

振り返ってみますと、元気と意欲だけは十分あったせいか、学校の実情も分からず、自分が勉強してきたことは何でもやらなければと意気込んで仕事をしていたように思います。今考えると、先生方にとっては負担であり、また、迷惑だったのではないかと思います。

養護教諭が何かを始めると、大変なのは先生方で、先生方の手を借りないと進まないのが養護教諭の仕事・・・しかしながら、校長先生始め先生方には新採養護教諭がやることを温かく見守っていただき、協力していただいたお陰で今の自分があり、一人前の養護教諭に育てていただいたような気がします。

この頃、「登校拒否」をする児童生徒が少しずつ見られるようになり、その対応に期待されたのが養護教諭で、子どもを取り巻く社会環境の変化に伴い子どもの健康問題も変化し、養護教諭の仕事内容も少しずつ変わってきました。また、学校保健法施行規則等も時々改正され、そのたびに対応を迫られながらも何とかやってこられました。

当然のことながら、退職するまで養護教諭として勤めるつもりでいましたが、晴天の霹靂・・・養護教諭25年目に指導主事として県教委に異動、そして教頭として7年間勤めさせていただきました。

私が県教委にいたときに導入された養護教諭の10年目研修は、他県から遅れること1年、実施されるまでにはいろいろなことがありました。忙しい仕事の合間に打合せや要項づくり、無事実施に至ったときには本当にほっとしたのを今でも覚えています。

また、平成19年度に本県で開催された全国養護教諭研究大会は、県内の養護教諭の皆様の御協力の下に無事開催することができ、本県の先生方の力、結束力を確認することができました。苦しいこともありましたが、充実した日々を過ごすことができた7年間でした。

平成20年度からは教頭として小学校に異動となり、現在に至っておりますが、多くの先生方の御支援・御協力で何とかやってこられました。ここに感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。



平成26年度 全国養護教諭連絡協議会研修会に参加して

宇都宮市立城山中央小学校 田島 有美子

7月31日(木)～8月2日(土)までの3日間、日本青年館で行われた全養連の研修会2日目に参加してきました。2日目は『医学情報』として、医療の現場で活躍中の先生方の貴重なお話を伺うことができました。午前中は『もう一人では困らない！養護教諭のフィジカルアセスメント 病院受診のタイミングと正しい応急処置について』というテーマで、花見川中央クリニックの北垣毅先生の講義でした。養護教諭に求められる臨床能力とは、緊急疾患の現場対応・処置、受診を勧める判断・根拠、帰宅させて良いかの判断・根拠、受傷後の学校生活はどうするか、という4点だそうです。頭部外傷、擦過傷、顔面外傷、眼外傷、脳震盪、痙攣時の対応や観察ポイントなどを説明していただきました。最後に、判断に迷った時のために、前もって保護者に連絡が取れないときの対応を決めておく、必ず観察記録を付けておくことが大切とのことでした。午後は『食物によるアナフィラキシー事故発生！！あなたは適切に対応できますか？』というテーマで、昭和大学医学部小児科講座講師今井孝成先生の講義でした。食物アレルギーを持つ児童の増加に伴い、学校給食での不必要な除去は避けるようにとのことでした。そのためにも、入学前に乳幼児期の食物アレルギーが改善しているかの確認をしてもらうことが必要であるとのお話でした。また、様々な症例からアナフィラキシーショック時の対応についてもお話しいただき、やはり、エピペンは迷ったら打つということでした。お二人の先生から専門的なお話をいただき、養護教諭として最新の医学情報をキャッチできるアンテナを高く持ち、自分の知識、技術としていくことが、子どもたちの命を守る、教育現場での唯一の専門職として必要不可欠であると痛感しました。



平成26年度「全国養護教諭研究大会」に参加して

大田原市立市野沢小学校 小柳 久美

8月7・8日に大分県で開催された全国養護教諭研究大会に参加させていただきました。

まず、「健康教室」に健康教材の研究を連載している、大分大学教育福祉科学部教授の住田実氏の記念講演がありました。高校生が毎年地元の小学校を訪問して、「保健劇」も含めた手づくりの授業によって交流を深めている取り組みや、兵庫県の香住小学校の、健康によいことをみんなで貯金しよう「ほねほね銀行こつこつ貯金」運動を、地域のお年寄り宅を訪問して実施している取組などが紹介されました。健康教育コーディネーターとして期待されている養護教諭が、学校において子どもたちが学び合った学習成果を、地域社会へ発信している様子を知ることができました。

次に、文科省の健康教育調査官である岩崎信子氏から、課題解決型の保健室経営計画を立て、保健室経営の充実を図るようという基調講演がありました。

次の日には班別協議会が行われ、「健康・安全に関わる危機管理」に参加させていただきました。先生方の共通理解を図るため、エピペンを処方されている生徒自身が出演し、エピペン使用マニュアルを動画で作成した取り組みなどが紹介されました。会場から、エピペンの保管をどのようにしているか、食物アレルギーの児童生徒と主治医との連携について等、いろいろな質問があり、食物アレルギー対応に関して危機感をもっている養護教諭が多いことがわかりました。

今回の研修は、栃木県から参加した、地区や校種の違う先生方と情報交換をしながら参加することができ、とても充実した2日間でした。このような機会をいただけたことに、感謝します。今後、研修会で学んだことを生かし、子どもたちのためにがんばってまいります。

## 平成26年度「 関東甲信越静学校保健大会」に参加して

小山市立小山第三小学校 深谷 裕子

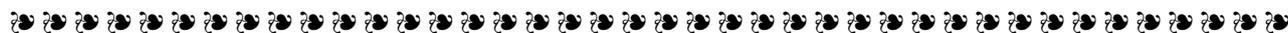
去る8月21日、千葉県の幕張メッセで開催された「関東甲信越静学校保健大会」に参加させていただきました。

特別講演では、1984年にはロス五輪に出場し、マラソンランナーとして活躍されたスポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授の増田明美さんからのお話を聴くことができました。

「自分という人生の長距離ランナー」と題し、走ることの素晴らしさ、人との出会い、夢を追いかける人生など明るく語ってくれました。ロス五輪での途中棄権という挫折から人の優しさに触れ、立ち直り、再起を果たされたことなど、忌憚なく紹介してくださいました。人生を切り拓けたのは、常に感謝する気持ちと前向きな考えを持って努力をした結果であり、置かれた環境にもプラス思考で取り組んだからこそ、苦境も乗り越えることができたのだと思いました。増田さんの温かいお人柄が会場全体に伝わって、最初から最後までとてもいい雰囲気の講演でした。

班別研究協議会では、学校歯科保健班「生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり」に参加させていただきました。視覚教材や体験的活動を取り入れた歯科保健指導を展開し継続指導することで、歯みがきの習慣の定着を図った取り組みや、「よくかむ」習慣の確立を目指し、児童委員会活動でK-1グランプリ（口輪筋を強化する運動）やH-1グランプリ（早口言葉）の実践事例の発表がありました。いずれも、児童の関心を高めるとともに、家庭や地域との連携により意識を高めていき、さらに生活習慣の改善につながった実践発表でした。

学ぶことがたくさんあり、とても有意義な1日を過ごすことができました。今後、学んだことを子どもたちに還元していきたいと思います。このような研修の機会をいただき、ありがとうございました。



### 地区だより（芳賀地区）

茂木町立茂木中学校 瀧田 恵

芳賀地区は小学校34名、中学校18名、県立学校10名の合計62名の会員で構成されています。芳賀郡市学校保健会の協力もいただき、年に3回の研修会を開催しております。今年度は7月に古河ヤクルトさんから管理栄養士の加藤香乃先生をお招きし「プロバイオティクスと健康」というテーマで、講話をいただきました。11月には筑波大学准教授の水野先生の「発達障害について」と獨協医科大学医学部産科婦人科部長 望月喜子先生の「思春期女子の健康について」の講話を予定しています。

また毎年、『肥満・痩身傾向に関する調査』『歯・口腔に関する調査』を夏休み前に集計し、データを冊子にまとめ、1月の郡市学校保健会研究大会に発表しています。

さらに例年、地区別に分かれて研究テーマを決め、2年単位で研究をすすめており、25・26年度はそれぞれ下記のテーマで研修に取り組んでいます。

- 真岡地区小学校ブロック 「性に関する指導について」
- 真岡地区中学校ブロック 「性に関する指導について」指導案作成と実践
- 益子地区ブロック 「健康教育を活性化するための外部講師等の連携」
- 茂木地区ブロック 「地域学校保健会の取組について」
- 市貝地区ブロック 「小児生活習慣病予防の取組」
- 芳賀地区ブロック 「生活チェックカードの実施について」
- 県立学校ブロック 「アレルギー疾患に関する取組について」



## 第3回「レベルアップ研修会」を開催しました！（8/21・県立博物館）

### 第3回「レベルアップ研修会」に参加して

芳賀町立芳賀北小学校 穂山 光子

午前中は昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島賢和先生による「こころの声言葉になるとき～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～」という講話でした。様々な事情で入院を余儀なくされ、学校へ行けない子どもたちに病院内で授業を行う「さいかち学級」は、テレビドラマのモデルにもなっています。院内学級に通う子どもたちは、「病気への不安」や「学習の遅れへの心配」「家族への思いや不安」など、様々な不安を抱えていて、その不安が大きい子ほど自分の感情を「ないもの」として過ごそうとする様子が見られるそうです。そんな子どもたちに、病気になった自分を責めたり、否定的になったりせず、「不安は表に出していいもの」「もっと自分を大切にしていんだよ」というメッセージを、ポケットに忍ばせた赤鼻をつけて道化師を演じたり、手品を見せたりしながら、一緒に笑い声を上げることで、自信と安心感を持たせる授業を行っているというお話。これは、私たちが日々接している、様々な不適応行動をおこす子どもたちの対応にも当てはまることだと感じました。

午後は千葉大学医学部臨床教授 北垣毅先生による「もう迷わない！超実践！校医が希望する保健室での処置対応のポイント」についての講話でした。学校の保健室で子どもたちがよく訴える、腹痛や頭痛の問診で注意すべき事、緊急性の見分け方。食物アレルギーやアナフィラキシーの時の対応。外傷では、眼のけがや挫傷時の手当（湿潤療法）、捻挫など、保健室で行うことの多い手当の効果的な方法や根拠、医療機関受診必要性の判断など、明日から実践に役立つ救急処置のポイントをわかりやすく教えていただきました。早速明日から保健室での実践に生かしていきたいと思いました。このような研修会を設けていただきありがとうございました。



### 第3回「レベルアップ研修会」実施後のアンケートより

レベルアップ研修会担当

今年度は8月21日に栃木県立博物館で一日行われました。今回は希望者が早く動き、受付初日から50人を超え、受付開始3日後にはほぼ定員に達してしまいました。多くの先生方が希望してくださったにもかかわらず受講できなかった方には大変申し訳ありませんでした。

研修会に参加された方のアンケート調査結果の一部を紹介いたします。

	良かった	普通	あまり良くない	良くない
院内学級関連	174人	3人	0人	0人
応急処置関連	174人	3人	0人	0人

#### ◆参加者の感想

- ・内容の濃い研修を受けることができ大変参考になった。64人
- ・明日からの執務にすぐ生かせる内容でした。7人
- ・受講したいのに人数制限があり受けられない事が残念。7人
- ・この研修に参加すると元気になる。3人・来年も参加したい。11人

#### ◇担当からお願い

受講の申し込み方法を、先生方の要望で、メール(web sa@)・郵送・FAXの4種類にしましたが、受付が大変混乱してしまい、その結果、先生方への受講決定通知に手違いが生じてしまいました。次回は申し込み方法を1本化し、手違いの無いように対応していきますのでご容赦ください。

